

SEA TRIAL

DREAMS START HERE

SASGA MENORQUIN 42HP

「SASGA YACHTS(サスガ)」がスペインのメノルカ島で建造する「Menorquin 42HT(メノルキン42HT)」。
丸いスターンを持つダブルエンダーがキャラクター。そして、キールから繋がる垂直のステムと、ステムの延長上に突き出した木製のステムポスト。
いずれも木造船時代の勇ましさを感じさせるメノルカ島スタイルを継承したもの。
そのデザインは、古からメノルカ島の漁師が操る1枚帆の漁船がルーツ。
唯一無二の愛らしいデザインが世界を魅了する。

text: Yoshinari Furuya photo: SASGA YACHTS
special thanks: SASGA YACHTS www.sasgayachts.com
OKAZAKI YACHTS <http://okazaki.yachts.co.jp>



風の島メノルカ、その美しい島で生まれたボート クラシカルなスタイルに最新のテクノロジー、それが SASGA が建造する「Menorquin」だ

「Menorquin (メノルキン)」は1978年、Juan Sastre Bernatによりスペインのメノルカ島で創業された。2006年には外部からの投資を受け入れることとなったが、2010年に現CEOのJose Luis Sastre Gardesが買い戻し、社名を「SASGA YACHTS (サスガ)」に変更。Inigo Toledoデザインのクラシカルで美しいデザインの新生Menorquinシリーズを発表し、好調なセールスとともにラインナップを充実させ、マーケットを拡大している。ちなみに、「Sasga」の由来は、Jose Luis Sastre Gardes氏の名前の一部「Sas

+ Ga」を合わせた造語だ。

「Menorquin 42HT」の故郷メノルカ島は、スペイン南東部の離島が集まるバレアレス諸島の北東部ジメネジラス群島に属し、マヨルカ島に次ぐ2番目に大きい島。透明度の高いエメラルドグリーンに輝く海、岩礁に囲まれたホワイトサンドのビーチリゾートの島として知られている。ボートの陰が海底に映り込む純白の砂と海水の透明度、風や波の侵入を遮る入り組んだ地形に守られた理想の入江は、ヨーロッパ中からボートヨットが押し

寄せる人気のアンカーレッジとして知られている。同じバレアレス諸島に浮かぶマヨルカ島やイビザ島のようなパーティーアイランドとは異なり、大音量のハウスミュージックも無く、自然の中で静かな時間を過ごすことができることも人気の理由。

そして、バレアレス諸島の中で最も北東に位置するメノルカ島は、バルセロナにも近い島。その距離およそ120マイル。スペイン対岸のサルデーニャ島(イタリヤ)はおよそ210マイル、フランスの港町マルセイユからでもおよそ230マイル。西地中海の中心に近く、ボートやヨットで訪れるには便利なロケーション。その地勢から、地中海交易の要衝として、ローマ帝国に始まり、ヴァンダル人、ビザンティン帝国、アラゴン王国など、時

代ごとに勢力を伸ばした西地中海の覇者に支配された歴史を持つ。この混ざり合う独特の文化も島の魅力のひとつ。来島者を虜にしているのだ。

*

「42HT」をはじめ、最新のMenorquinをデザインするのは、Inigo Toledo率いるマドリードのBaracuda Yacht Design。Inigo Toledoは、1991年のアメリカズカップに出場したスペインチームのレースヨットを設計したナールバルアーキテクト。ワンオフレーサー以外に、プロダクションのレースヨットやモーターボート、ワンオフのメガヨットまで、セールやモーターにかかわらずマルチに設計を手がけている。プロダクションではX-YACHTSやBENETEAU Firstなどクラブレーサーをデザイン。世界中の





ヨットレースで好成績をあげ、世界的にセールスを成功させた手腕は、大手ビルダーからも非常に信頼されている。

その Inigo Toledo が設計するプロダクションモーターボートの代表作が SASGA YACHTS の Menorquin だ。Inigo Toledo の設計により、スロースピードの旧モデルからデザインが一新されファストローラーへ生まれ変わった。ハードトップモデルの「34HT」、「42HT」、「54HT」。42HT と 54HT のハードトップモデルにフライブリッジを搭載した「42FB」、「54FB」。そして、フラッグシップの「68FB」はフライブリッジモデルのみ。これら現行ラインナップ全てのモデルを Inigo Toledo が手がけている。かつての Menorquin のアイデンティティを継承しながら、高速で航行することができるセミディスプレイメントのハルを設計。そこにハイパワーエンジンを搭載し、クラシカルなローラースタイルでありながら、20 ノット以上で航行するファストローラーを完成させた。

生まれ変わった「42HT」は、一見旧モデルと変わらない伝統的なデザインだが中身は最新のローラー。ハルはバキュームインフュージョンを使い剛性と信頼性を高め、デッキやフライブリッジなど上部構造物はフォームコアをサンドイッチして軽く強く造られ、重心を低く、船体のローリング



を最小に抑えている。トランサム中央にステムを持つ伝統的なダブルエンダーから、スクエアでフラットに近いトランサムへ。アフトデッキが広く使いやすくなった。伝統的なデザインを残しながら進化する「Menorquin 42HT」。新しい Menorquin スタイルは、オールドソルトだけでなく、ニューカマーにも支持されている。

*

スイミングステップは、船体の一部と繋がる丸く大型のもの。前後はおよそ 1,300mm とワイド。インフレーターブルのテンドーなどを搭載することを前提に設計されている。そのため、スターンから乗り降りするためのパサレラ（ギヤングウェイ）はテンドーの上を越え岸壁まで伸びるようにブルワークの高さに設置。テンドーを移動させることなく、岸壁とデッキを往来することができる。

アフトデッキは旧モデルのダブルエンダーのように絞られてはいない。スクエアに近いラウンドスタンは広く、アフトデッキを有効に使うことができる。リアドアは左右に2つ折りになり、開口部も広く、チークデッキとサロンフロアに一体感をもたらす。独特の傾斜したドアは、レールに適度な重みがかかり、ドアのガタつきを防いでくれる。揺れる海上においても、勢いよく閉じたりす



垂直のステムはそのままに、大きく変化したボトムデザイン。ハウからスタンまで直線的に入っていたフルキールが、中央付近だけに限定された新時代のキール。直進性が高く、ソフトライド、プロペラが守られるメリットを残しながら、追い波時のローリングもなくなり、回頭性が向上している。

ることなく緩やかに開閉し安全だという。このリアドアと同じカラーのチークがイブス(庇)の下面を覆う。このような伝統的なMenorquinスタイルを継承したクラシカルなエクステリアが、キャラクターを引き立てている。

リアドアを大きく開けてキャビンに入る。全周を大きなウィンドウに囲まれたサロンは、視界が広く光に溢れている。木部は人気のオーク。木目が強調されたDecape仕上げは、セールポートやサロンクルーザーのトレンド。ハイトーンのオークがキャビンをさらに明るく見せている。

スターボードサイドにはU字型のソファ。ポートサイドにはギャレー。このメインサロン内にあるアッパーギャレーは、前方の見張りをしながらギャレーを使うことができる機能的なもの。長距離航海に向くレイアウトだ。アッパーギャレーとは異なるダウンギャレーも選ぶことができる。階段の下にギャレーを配し、プライベートなスペースをダウンフロアに集めたデザイン。メインサロンには対面のソファ。生活感を見せないくつろぎのスペースは、ゲストを招きやすい。ただし、ダウンギャレーの場合、ゲストキャ

ビンのひとつがギャレーに変わり、3ベッドルームが2ベッドルームとなる。ゲストやクルーの人数、乗り方を考慮し、キャビン数やバージョンを選ぶことをお勧めする。

スターボード前方のヘルムステーションは伝統的なトローラースタイルのレイアウト。ヘルムシートは、2人掛けのクラシカルなベンチシート。リラクセスして、長距離航海のワッチをすることができる。フロントウィンドシールドは垂直に近く、光の乱反射も少なく周囲も見やすい。また、前方に飛び出した大きなイブスが光を遮り計器類の視認性も良い。インテリアの劣化も防いでくれる。

メインフロアからバウ側のステップを降りるとキャビンスペースとなる。正面のバウキャビンがマスターステートルーム。中央にはクイーンサイズのア일랜드ベッド。左右には旧モデルにはなかったサイドウィンドウ。サイドウィンドウからは水面が見え開放的。サイドウィンドウに加え、トップライトからも光が降り注ぎ、明るいマスターキャビンは快適だ。専用のシャ

木造時代のコンソールを継承したデザイン。形状や配置は現代的で機能的だが、パネルやスイッチ以外、樹脂が使われていないコックピット。モニターだけのグラスコックピットが主流となりつつある中で、あえてアナログのメーターを並べたところに、伝統を大切にしているSASGA YACHTSの拘り、美学が感じられる。



42FB



ワーブース付きトイレや大型ハンギングロッカーなどアコモデーションも充実。オーナーのプライバシーが守られている。長距離航海、長期滞在も快適に過ごすことができるだろう。

マスターキャビンの後方、スターボードにはツインベッドのゲストキャビン。ポート側には、セミダブルのゲストキャビンも備わる3キャビン。ダウンギャレーの場合は、このゲストキャビンのスペースが使われることになる。マスターキャビンとの間には、シャワーブース付きのデイヘッド。デイヘッドは、ゲストキャビンのトイレを兼ねている。

パワートレインはVOLVO PENTA D6-330。6気筒 5.5リッター・コモンレールディーゼルトーボエンジンを2基搭載。マリンギアからシャフトに330馬力を直接伝えるシンプルなインボード。セミディスプレイメントの「Menorquin 42HT」には十分なトルクが引き出される。現在は、この330馬力のエンジンは無くなり、標準エンジンはD4-300。最新の環境対応エ

ンジンに変わり、燃費と静寂性がさらに向上しているという。

*

スタンディングポジションでラットを握り、シフトレバーに手を伸ばす。スロットルを開けるとディスプレイメントのボートのように、安定感を保ったまま抵抗感なくスムーズに動き出す。1,000rpmで6.2ノット、1,500rpmで7.2ノット。風速5～6m/sのパシャパシャとした風波が立つ海面の中、ほとんど姿勢を変えることなく安定したまま加速する。2,000rpmで9.8ノット、2,500rpmで12.2ノット。2,500rpmを超えたあたりからプレーニングに入り、3,000rpmに達した時には18.6ノットまで加速。トップスピードは3,450rpmで23.5ノット。トローラーとしては十分なスピードを記録。抵抗の少ないボトムデザインにより、トップスピードでもノーズが上がらずウェイキは控えめ。ノイズも少なく、エンジンに無理をさせていない感じがヘルムスに不安を与えない。



メノルカスタイルの伝統的なスタイリングが美しいのはハードトップだが、ロングレンジトローラーやデイクルーザーとしては、開放感や視認性の高いフライブリッジも捨て難い。普段必要のない時には格納されるラダー。必要な時だけラダーを引き出せば、乗り降りしやすい傾斜でアフトデッキにしっかりと固定されるといふギミック。



「Menorquin 42」は、アイコンでもあるメノルカスタイルのデザインがキャラクターではあるが、最大の特徴は、波の中での走破性能だ。強風が吹くメノルカ島で鍛えられた船体。薄く鋭角なステムで波を切り、大きなフレアで飛沫を落とす。キールのあるボトムが柔らかく着水、不快なパンチングはほとんど起きない。さらに、大きなうねりの中でも、低重心でセンターバランスの船体はローリングもピッチングも少ない。そして、高剛性の船体により、波による不快な振動や音も最小に抑えられている。

ハンドリングは伝統的なトローラーのもの。ラットは軽く旋回はスロー。キールがついたセミディスプレイメントのボトムは旋回中もほとんどバンクすることなく、水平を保ち安定したまま大きく旋回する。スローで穏やかなレスポンスは長距離航海に向いている。キャプテンやクルーを含む乗船者に優しく、長時間の航海でも疲れさせないだろう。

*

毎日のように風が吹くことで知られるメノルカ島。メノルカ島周辺の波



カンヌショーデモ艇のパワートレインはVOLVO PENTA D6-330。2020モデルではこの330馬力のエンジンは無くなり、標準エンジンはD4-300に。最新の環境対応エンジンで、燃費と静寂性がさらに向上しているという。

中央は、日本のインポーターとなり、SASGAブランドを日本に紹介するオカザキヨットの岡崎浩資朗社長。左は、SASGAの名の由来となったSASGA YACHTS代表のJose Luis Sastre Gardes氏。若い2人のリーダーにより、日本にMenorquinのポートとメノルカ島の文化が広まることになるだろう。



は日本近海の波浪にも似たチョッピーなもの。だからこそ、鋭角なステムに大きく張り出したチャイン、大きめのキール、高めのバウに大きなフレアのデザインが引き継がれている。日本の漁船にも類似するデザインとなるのは必然なのだ。つまり、Menorquinは、日本の海にも適したハルを持つボートということ。中でも、この「Menorquin 42HT」は、港を選ばないサイズと取り回しや居住性のバランスが取れた日本にジャストサイズのトローラー。日本一周クルーズに最適なボートと言えるだろう。P.B.

SASGA Menorquin 42HP

X全長 13.20 m
全幅 4.00 m
喫水 1.10 m
重量 11.00 ton
エンジン 2x VOLVO PENTA D6-330
最高出力 2x 330 HP
燃料タンク 1,200 L
清水タンク 500 L
スピード Max 23 kt
Cruise 12 kt

問い合わせ先 オカザキヨット
TEL: 西宮 0798-32-0202, 横浜 045-770-0502
http://okazaki-yachts.co.jp



YouTube



YouTube